

【純石鹼とプラセンタによる肌トラブルケア】※

肌を清潔に保ち、余分な成分を残さず、しっかり栄養補給を行います。

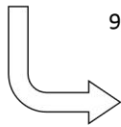
泡切れのよい洗顔と、プラセンタ成分で、肌の自己回復力を助けます。

1. 純石鹼洗顔フォーム (洗顔) やさしく泡で洗い、しっかり流す。
2. やまだ泉 (温泉化粧水) or C6ウォーター 肌をなじませて、整える。
3. C6クリーム (保湿) 保湿仕上げ。プラセンタ成分補給。

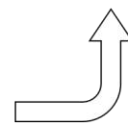


※

7/23



9/1



9/25

【日常、気を付けること】

1. クレンジングは毛穴奥の新しい油脂と常在菌を取りすぎないように。
2. 肌をいつも清潔に。汗はハンドタオルで押さえて拭く。雑菌の繁殖を抑える。
3. 皮膚を決して搔かない、こすらない、傷つけない。
4. ストレス解消。趣味、おいしい食事、野菜と睡眠をたっぷりとって。

【その他、細かなこと】

ニキビも、アトピーも、炎症の悪循環。その悪循環を断ち切るには、「肌を傷つけない」「雑菌の繁殖を抑える」「ストレスのない生活」「栄養補給」がポイントです。

毛穴奥の新しい皮脂は、実は、最高級の保湿剤。クレンジングや洗浄剤に使われているDPGなどの合成界面活性剤は、疎水基と親水基を二つ持つ強力な皮脂溶解剤で、必要な皮脂まで取り除いてしまいます。泡切れのよい純石鹼でやさしく洗い、せっかくの毛穴奥の最高級保湿剤を失わないようにしましょう。

肌はいろんな工夫をして肌を守っています。「常在菌」をわざと増やしているのも雑菌を増やさない工夫の一つ。納豆菌やわざと増やして納豆を腐りにくくしているのと同じです。肌表面や毛穴奥の常在菌を流しすぎないようにして、雑菌の繁殖を防ぎます。

基本は、できるだけ化粧品の使用量を少なくし、肌表面に不必要なものを残さないようにすることです。はじめは純石鹼や温泉化粧水だけを使用して、余分な成分が残らないように心掛け、最小限のC6クリームで終わるのがベストです。

肌に余計なものを何も残さず、肌が持っている本来の健全なシステム（皮脂の分泌。常在菌の繁殖。弱酸性。）を維持・利用することが重要です。合成界面活性剤やオイルの中には、「感触改良効果」とあって、肌の表面に残り、あたかも感触がよいように感じさせるものもあるので、強い洗剤は避けます。

皮脂と常在菌を適度に温存しつつ、それ以外の成分は極力のこさず、清潔に保ち、肌が本来もとめている栄養素（たとえばプラセンタ成分）だけを補給してあげれば、肌は健全な新陳代謝システムを取り戻します。

※純石鹼の洗浄効果やプラセンタ成分を基にした一考察であり、実験結果を示すものではありません。

※プラセンタに含まれる成分（※）は肌の栄養源になりますが、薬効成分ではありません。

※画像は一例であり、手順の効果を示すものではありません。

※プラセンタに含まれる成分：アミノ酸、タンパク質、脂質、多糖類、ビタミン類、ミネラル類など。